



▲ 未来の石西礁湖のイメージ(石西礁湖自然再生全体構想における長期目標のイメージ)

石西礁湖

自然再生

石西礁湖はいま シリーズ⑱

石西礁湖の近年の状況

環境省では、石西礁湖のサンゴ群集モニタリングを行っており、第17回石西礁湖自然再生協議会では、そのモニタリングの解析結果が説明され、今後は「衰退傾向にあり、加入が期待できない場所での再生を進める必要がある」ことが報告されました。

【環境省で実施している調査】

— 長期データ：環境省モニタリングサイト1000調査結果
— 近年データ：石西礁湖サンゴ群集モニタリング調査結果

【これまでの状況】

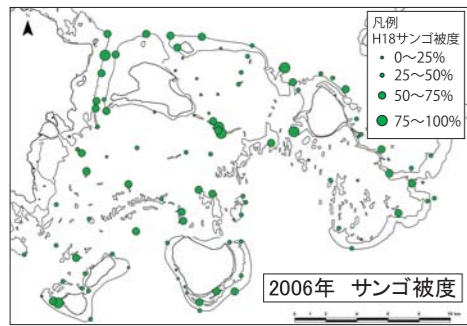
— 1998年白化、2006年台風13号、2007年白化
— 2008年以降オニヒトデ大発生の攪乱により衰退

【近年の状況】

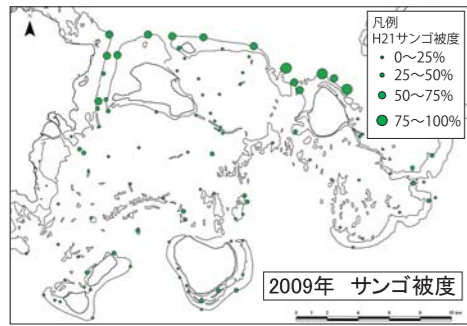
— 礁湖全体としてサンゴ類の顕著な回復傾向はみられていない。
— 高被度のサンゴ類が残る北礁(礁湖北部)で衰退傾向。
— 2011年以降、稚サンゴの加入が増加傾向(礁湖北部が主体)。礁湖南部でも加入がみられ、注視する必要がある。

【まとめ】

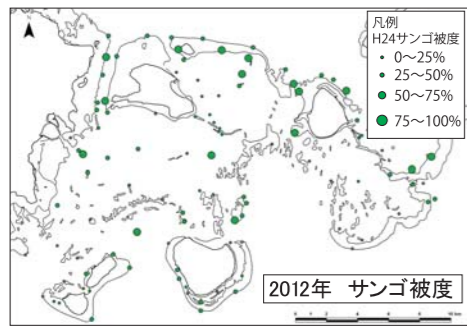
— 北礁(礁湖北部)、ウマノハビ礁縁(礁湖南東部)で衰退傾向。
— ヨナラ水道や黒島北部等の礁湖内4ヶ所で回復傾向。



2006年 サンゴ被度

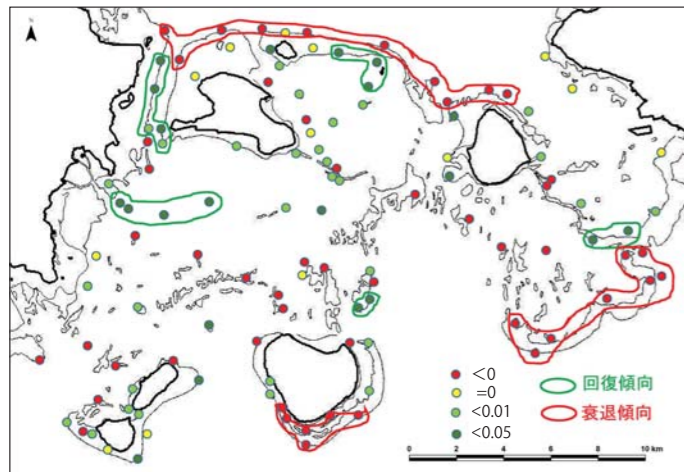


2009年 サンゴ被度

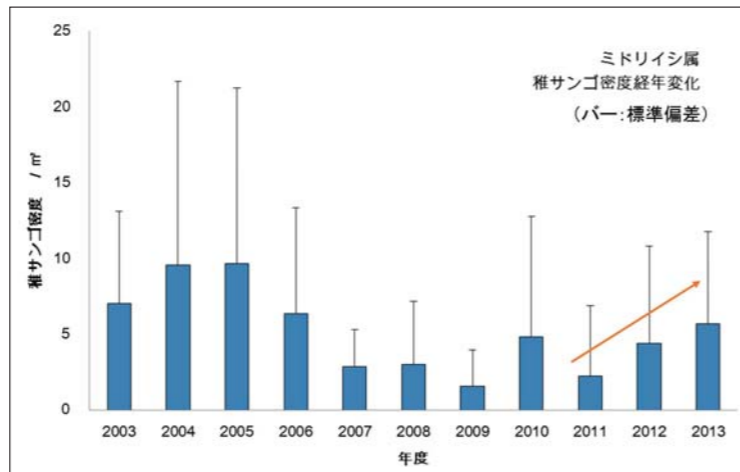


2012年 サンゴ被度

2007年以降のサンゴ被度変動の状況



石西礁湖へのミドリイシ属加入経年変化



日本最大のサンゴ礁が危機です
石西礁湖はあなたの寄付を待っています



石西礁湖サンゴ礁基金は、平成20年10月に石西礁湖自然再生協議会が設立した基金です。

これまでに、全国の方から約500万円のご寄付が寄せられています。このご寄付を活用し、協議会構成員と協力して、農法転換によるサトウキビ畑からの赤土流出防止、新たに開発された酢酸注射法によるオニヒトデ駆除、小学生など住民がサンゴの健康度を測定するコーラルウォッチ等の事業を行ってきました。

昨年、事業をさらに拡大するため、NPO法人の認証を受け、新たなスタートを切りました。これにより、企業と提携しての事業、他団体等からの助成金、受託等による事業などへも活動範囲を広げ、石西礁湖自然再生に向けた取組をさらに進めていきたいと考えています。

名称	特定非営利活動法人石西礁湖サンゴ礁基金	
設立	平成25年5月21日	
所在地	〒907-0022 沖縄県石垣市字大川209番地	
ホームページ	http://www.strata.jp/sangokikin/index.html	
目的	日本最大のサンゴ礁海域である石西礁湖が、高水温による白化、オニヒトデの大量発生、赤土流出及び水質汚濁等により衰退していることに対し、その生態系を再生し、かつての石西礁湖の姿を回復するため、攪乱要因の除去、良好な環境創成、持続可能な利用、調査研究・モニタリング、広報啓発等の事業を石西礁湖自然再生協議会構成員と協力して行い、地域住民、この地域を訪れる人々、その他すべての人の手に、サンゴ礁の海の恵みを取り戻すことを目的とする。	
事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 攪乱要因除去事業 ・ 良好な環境創成事業 ・ 持続可能な利用に関する事業 ・ 調査研究・モニタリング等事業 ・ 広報啓発事業 	
役員	役職	氏名
	理事長	入嵩西 正治
	副理事長	前田 博
	理事	大堀 健司、上村 真仁、灘岡 和夫、宮本 善和
	理事(事務局長)	鷲尾 雅久
	監事	片桐 政順、黒島 直茂

☆ 会員を募集しています ☆

● 正会員(議決権のあるメンバー)：年会費 個人 3,500円、団体10,000円

● 賛助会員(趣旨に賛同し支援)：年会費 個人 2,000円、団体5,000円

* 申し込み方法 郵便振替の払込取扱票にご記入の上、会費をお支払いください。

(問合せ先：鷲尾 washio@ruby.ocn.ne.jp 090-5440-5495)

編集
発行

石西礁湖自然再生協議会運営事務局



環境省 那覇自然環境事務所



内閣府 沖縄総合事務局開発建設部港湾計画課

【住所】 〒907-0011 沖縄県石垣市八島町2-27 環境省石垣自然保護官事務所内

【電話】 0980-82-4768 【FAX】 0980-82-0279

【E-mail】 okironc@coremoc.go.jp 【自然再生ホームページ】 http://sekiseisyouko.com

石西礁湖自然再生全体構想:短期目標10年に向けて

平成26年1月27日(月)に、沖縄県八重山合同庁舎において、「第17回石西礁湖自然再生協議会」を開催し、委員、傍聴を含め計60名が参加しました。

協議会では、NPO化された石西礁湖サンゴ礁基金の運営状況、各部会・ワーキンググループからの報告等がありました。また、石西礁湖自然再生全体構想における短期目標達成に向けて、自然再生の取組状況のとりまとめや目標達成状況の確認等が必要であるとの意見が出されました。

さらに、短期目標を達成するためには、体制強化のために設置されたワーキンググループでの活動を強化するとともに、各委員においても全体構想における取組内容を再度見直し、サンゴのみならず、魚類等のサンゴ礁に生息する生物や藻場・干潟を含むサンゴ礁域の自然再生を目指すことが確認されました。

長期目標(達成期間30年):人と自然との健全な関わりを実現し、1972年の国立公園指定当時の豊かなサンゴ礁の姿を取り戻す。

短期目標(達成期間10年):サンゴ礁生態系の回復のきざしが見られるようにする。そのために環境負荷を積極的に軽減する。

＜石西礁湖自然再生協議会＞

協議会委員:自然再生事業実施者、地域住民・NPO・専門家、関係行政機関等

＜協議事項＞
①全体構想の作成、②自然再生事業実施計画の協議、③事業実施に関する連絡調整など ※WGの報告を主体とする

《生活・利用に関する部会》

・地域住民の生活に必要な活動との両立を検討する場

NPO法人石西礁湖サンゴ礁基金

WG:ワーキンググループ(部会準備会)

【陸域対策WG】

・赤土等流出防止対策
・排水等対策

【海域対策WG】

・オニヒトデ対策
・水産資源管理
・海域の適正利用

【普及啓発WG】

・普及啓発項目の検討
・広報啓発システムづくり

【学術調査WG】

・サンゴ礁の現状把握
・科学的知見に基づく
対策検討

※適宜WG間で情報共有・意見交換会を実施(地域委員会の発展型→地域主導で運営)

協議会委員以外の方々の自然再生活動

協議会における各部会・ワーキンググループの活動報告

Group Discussion

1 陸域対策ワーキンググループからの報告(発表:干川委員)

- ・サトウキビ畑の赤土対策としてグリーンベルトが推進されているが、植栽の配置によっては、畑の浸食等を起こす原因になる場合がある。
- ・サトウキビの栽培方法としては、株出栽培(収穫後も株を残す方法)と新植栽培(夏植え・春植え)があり、一般土壌流出予測式(USLE)によると、株出栽培は新植栽培の1/13の流出抑制効果があることが分かった。
- ・今後、石西礁湖サンゴ礁基金による株管理機利用料助成や、石垣市よるペイト剤(株出栽培を行う際の害虫駆除剤)補助等を広報し、株出栽培の促進に努めたい。



2 海域対策ワーキンググループからの報告(発表:環境省石垣自然保護官事務所)

- ・海域対策WG内のオニヒトデ小グループにおいて、平成25年度のオニヒトデ駆除事業対象地が選定された。
- ・現在、オニヒトデ分布は、石西礁湖北部や石垣島周辺、西表島北部に多く発生しており、沖縄県、石垣市(環境課、水産課)、環境省において駆除事業を行っている。
- ・環境省は、「自然再生事業実施計画」を作成し、有性生殖による移植事業を実施している。近年採苗率の向上や移植サンゴの産卵などの成果がみられている。今後は、スリック採取や水槽での種苗育成、幼生定着のためのサンゴ磯固定等に取組む予定。



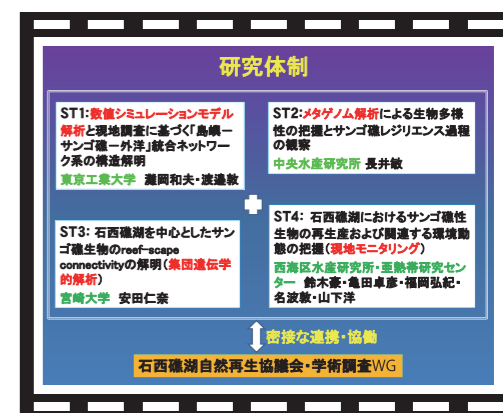
3 普及啓発ワーキンググループからの報告(発表:わくわくサンゴ石垣島プロジェクト)

- ・わくわくサンゴ石垣島プロジェクトは、「石垣島をサンゴとサンゴ礁について学び、ふれ合うことができる島にすること」をビジョンとした島の活動である。
- ・石垣市立富野小学校では、学年ごとに継続してコーラルウォッチを行っている。2013年12月には、第16回日本サンゴ礁学会においてポスター発表も行った。
- ・わくわくサンゴ石垣島プロジェクトでは、「大人の調べ学習会」として、子どもの環境教育のために大人の勉強会を行っている。
- ・協議会では、活動の一例として「どーなる?コーラルサンゴ生き残りゲーム」が紹介された。



4 学術調査ワーキンググループからの報告(発表:灘岡委員)

- ・「環境省環境研究総合推進費プロジェクト」(平成25~27年度)の現状結果報告がなされた。当プロジェクトでは、現地調査、シミュレーションモデル、メタゲノム解析等を用いて、石西礁湖における統合ネットワーク系の構造解明を目的としており、4つのサブテーマに分かれて研究が進められている。
- ・サンゴ礁生態系の回復の観点から、サンゴ礁生物の一つであるナミハタの禁漁区とサンゴ群集の関係について報告がなされた。これまで、石西礁湖におけるサンゴ群集保全は、テーブル上のミドリイシの回復と水質改善がうたわれてきたが、ナミハタ保全の観点から、枝状・ブラシ状ミドリイシの重要性等が示唆された。



5 生活・利用に関する検討部会からの報告(発表:内閣府石垣港湾事務所)

- ・平成25年6月に第10回生活・利用に関する検討部会が開催され、石西礁湖ルールマップ(仮称)や石垣港湾事務所からの工事報告がなされた。
- ・竹富南航路の整備において、一部のサンゴについて実行可能な範囲でサンゴの移設を行っており、移設後15カ月が経過し、生存被度が増加している点も見られている。
- ・石西礁湖における利用の観点から、航行自粛経路や追い越し自粛区間(試験区間)が紹介された(「竹富南航路周辺利用者連絡調整会議」より)。

